

**生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター新津
担当圏域レベル）開催報告書**

1 開催日時	令和 8 年 1 月 23 日（金） 9 時 30 分 ～ 11 時 20 分
2 開催場所	可美公園 第1・2研修室
3 参加者	
委員10名（新津地区5名、可美地区5名）、関係機関5名、事務局4名	
4 協議の内容	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 会長挨拶3. 協議事項<ol style="list-style-type: none">① 第2回 可新生活支援体制づくり協議体会議 報告 CSWよりパワーポイント資料を用いて報告をおこなった。② 【情報提供】 地域包括支援センター新津より 介護保険で出来ること（保険対象）と出来ないこと（保険対象外）を例を挙げて紹介。今後利用が難しくなるであろう生活援助について、また地域であった助け合いの事例などを共有③ 【意見交換】 3グループのワールドカフェ形式にて意見交換を行った。<ol style="list-style-type: none">I. 地域活動の裾野を広げるためには、どのような働きかけが必要かII. 困りごと発見のためにIII. 自分が感じる地域の課題について（高齢者に関すること） ※別紙参照4. 令和8年度協議体委員の継続調査票について 委員継続の調査を行った。その場で回収し後任者が決まっていな団体については、後日連絡をいただいて回収を行う旨を案内。5. 連絡事項6. 閉会
5 今後の見通し・必要な対応	<p>これまで地区ごとの課題にて協議をおこなっていたが、今回の会議では地区を分けて、ワールドカフェ形式にてテーマごとに活発な意見交換をすることができた。</p> <p>年度1回は地区を混ぜた意見交換がおこなえるような会議体をとの要望が委員より寄せられたため実施できるよう調整する。次年度協議内容については、両地区ともに今の地域課題について検討をする。</p>

新津圏域生活支援体制づくり協議体 グループワーク報告

●Aグループ

<1>委員4名、包括1名、市社協1名

①地域活動の裾野を広げるためには、どのような働きかけが必要か

- *男性が孤立気味との話しがあった、地域のふれあいサロンを見ても女性が多く、男性は少ない
男性は閉じこもり気味、プライドが邪魔して出てこない人が多い、
男性は参加するに目的が必要。
すそ野を広げるには男性参加を拡大することが打開策とも言える
- *自治会等の役員は男性ばかり、子ども会となると女性が殆ど
男性は仕事で外に出る、女性は家にいるから地域とお付き合いという昔ながらの
風習が残っているのでは
- *女性は誰とでも会話ができる
- *ふれあい交流センターでは、男性陣が将棋や囲碁をやりに通っている
趣味や楽しみを見つけると出かける
- *他の地域で、公会堂のベンチに将棋盤を置いといたらどうかとの案があった
- *新橋体育センターに小さなジムがあり比較的人気、公会堂など地域の身近なところに
健康器具があると外出の機会になるかも
- *地域に恩返しとの思いがあり地域の役もやるが、最近ではそういった意識も薄れて
いる
- *以前は婦人会のつながりが何十年も経過してもある、自治会女性部などもなくなる地域も多い
- *地域との関わり 子どものころからのつながりがあると溶け込みやすいが、転居した人たちはつな
がりがない
- *自治会役員ですら 15軒ぐらいの近所の様子が把握できない
- *地区といっても町ごとに地域事情が違って一緒に考えるのが難しい
- *散歩途中の休みどころとしてのベンチのアイデアは良いと思うが、管理などの問題を考えると難し
くになってしまう
- *市内他の地域でも、ベンチプロジェクトを検討した時があるが、歩行者が少なく頓挫した
⇒新津は歩いている人が多いと思う
- *カラオケの集いは男性が多い

<2>委員3名、包括1名、市社協1名

②困りごと発見のために

- *⇒前のグループでの話：男性の参加が少ないとの話題、グランドゴルフやカラオケがきっかけで
シニアクラブに入る人も少なくない、まずは来てもらうことが重要
- *民生委員の立場として、友愛訪問が基本 何でもないことでもなるべく会話することを心掛けてい
る。サロンに来た時、何かの際に会った時など 目配り・気配り
- *地区社協としては、アンケート調査をしようと思っている
また、自治会会合に出席した際には各組長等に気づいたことがないか投げかけている繰り返し働き
かけること
- *地域としては住民の困りごとを聞く機会がなかった、敬老会案内時にアンケートを渡し敬老会当日
に回収する方式がどうかと考えている
- *高齢者にも元気な人や虚弱な人など いろいろな人がいるので一緒に考えるのは難しい
- *自治会・民生委員・地区社協と個人情報保護に逸脱しない方法で、情報共有がある程度できると
良いと感じる
- *地域の回覧板などのご近所を気にかけるきっかけになると思われる。しかしながら回覧板を
廃止する意見も一方で多い。縁もない訃報情報をもらっても届けに行けただけでも負担に感じる

- *元気な高齢者が高齢者を助ける仕組みを地域で展開する必要がある
- *フレイル予防や要支援の方々の行ける場を行政も積極的に取り組むと良い
- *単身高齢者でも 遠方に住んでいても家族がある程度面倒見るのが原則だと思う、身寄りが
ない方は別の方法が必要。相談機関に来る困難ケースの半分以上は本来であれば家族で解決
できることが多い、家族関係を良好にしていくことも一つの解決策かもしれない

< 3 > 委員 3 名、市職員 1 名、包括 1 名、市社協 1 名

③自分が感じる地域の課題について（高齢者に関すること）

- *前のグループでの話し：どれだけ情報発信していくか、なり手が無い、参加者が少ない
- *防災の役を担えない人が増えてきている、助けられる対象が増加
- *周りに住んでいる人の情報が分からない
ご近所の助け合いが必要なのは理解しているが、事例の共有などができれば
- *自治会で公式 LINE があり個別に相談ができる仕組みにした
- *困りごととしてはゴミ出しが大変との声が多い、家事支援スタッフも高齢化しており
今後、依頼が増えてくると対応ができるのか不安
元気高齢者を発掘して 具体的なニーズを掘り起こすことが必要
- *担い手不足の問題、70 歳にならないと地域で動けない
今後は有給で担ってもらえることも考える必要がある
- *ある一定の仕組みを担う方は有給の検討も必要と思われるが、同時に助け合いの地域のマインド
も途切れることなく伝えていく必要もあると思われる
- *中学生ボランティアも参加してもらう方法
- *各企業等でのボランティア休暇制度が広がると、地域活動にも広がりがあるのでは
- *福祉施設が多い地域でもある、事業所と連携・協働できる部分があるのではないかと
- *婦人部のつながりがなくなり、子ども会がなくなり、PTA もなくなると地域活動に参加する
きっかけがなくなる
- *ふれあい交流センターの利用者の年齢層が依然と比較して高くなっていることから
地域に関わりは始める年齢が高くなっているのを実感する
地域の生活を支える仕組み
- *担い手不足が大きな課題、人はいるのに繋がらない
世代交代をどうしていくかが大きな課題であると感じる

● Bグループ

< 1 > 委員 2 名、市職員 2 名、市社協 2 名

①地域活動の裾野を広げるためには、どのような働きかけが必要か

- *出てくる人は出てくるが、声を掛けないと参加してくれないことが多い。
- *参加募集についても人のつながりや直接の声かけは必要。
自治会役員を退いた人でさえ出てこなくなる。
- *自治会役員の経験者に引き続き地域活動に関わってもらえる仕組みがあれば良い
役員も高齢化しているが、70 歳はまだ若い活躍の場があることを知ってもらおう。
- *卸本町公式 LINE 開設
回覧については全戸配布で行い、公式 LINE は 2 日後に通知をする。
また、行事やイベントの際には 2 日前にリマインド通知を行っている。
- *高齢者の方（80 歳～90 歳は特に）は餅投げがあると、参加してくれる感じがある。
- *祭り好きな人は出てくる。（浜松まつり、夏祭り、秋祭りなど）
- *男性は仕事をしていると地域とのつながりがそもそも薄い。女性は子育て段階から何かと
地域の行事など関わる機会が多い。そのためコミュニティが存在しているのだと思う。
- *自治会としては民生委員との関わりを持ちたいと思うが、個人情報の取り扱い等で連携が出来な
く
なることがある。

< 2 > 委員 5 名、市社協 2 名

② 困りごと発見のために

- * 普段と様子が違うと感じた時、会いに行こうと話をして断られてしまうことがあり、直接踏み込めないような時は包括に相談する。偶然を装っての訪問など、工夫して訪問してくれる。
- * 民生委員として友愛訪問が基本。地区の担当者が対象者を 1 日 1~2 件訪問を行う計算である。また対象者によっては週 1 回~月 1 回と様々である。日頃の何気ない会話や挨拶が見守りにつながる。向こう 3 件両隣というが、せめて自宅を囲む 8 件だけでも知っていることが望ましいと感じている。
- * 個人情報の兼ね合いで難しいが、名前はわからなくても何人が住んでいてどの年代の人なのか、多少の情報を得るためにも興味を持って生活を送るように声掛けを行っている。
- * 自分は友人が多い方だと思っているが、中には一人暮らしだが家には尋ねて来て欲しくない人がいる。寂しい時に電話をしてくるが、出かけることに不自由の様子。包括さんや民生委員さんに繋がりたいと思っても本人が拒否している。その方だけではないが一人暮らしの方は気に掛けるようにしている。
- * サロンやシニアクラブに顔を出す際に、気軽に相談してもらえるように声をかけている。繰り返し働きかけることが大事。
- * 高齢者 65 以上とすると、元気な人もいれば、足腰の弱い人などいろいろな人がいるのでひとくくりにはできない。
- * 自治会長の任期も自治会によって違い、得た情報は個人情報になるが、ある程度の情報共有ができるようマップに記せば、有事の際にも活かせることが出来る。歩くのに杖が必要。移動は車イスが必要などの覚書程度でも良い
- * 地域の回覧板なども SNS を活用したものが増えてきていると思うが、顔を突き合わせることの必要性は欠いてはいけなさと常々思っている。回覧板を回すことでご近所を気にかけるきっかけとなる。廃止ではなく両輪で行うことが望ましい。

< 3 > 委員 4 名、市社協 2 名

③ 自分が感じる地域の課題について（高齢者に関すること）

- * 定年年齢が引きあがっているため、高齢者が高齢者を助ける必要がある
- * 災害時避難行動要支援者名簿の登録についてもあまり周知されていない。自治会としては登録となれば支援者を 2 名つける必要があるので探しはするが、勤めに出ている人をお願いするのは難しいと感じる。自宅にいる人であれば元気な高齢者をお願いしなければならない。自治会長を支援者に登録すると一人で自町であると 15 名を見ることになり現実的ではない。
- * 退職予定者に地域活動についてなどの講座を企業と合同で考えてもいいと思う。
- * 民生委員は 3 年 1 期ではあるが、1 期で退任する方は 3 割、2~4 期務める方が多い。地域の課題を我がごととして感じていると思う。
- * どのように過ごしたいなど選択肢が増えていることで、地域へ出てこない人が増えていると思う。
- * 自治会の下部組織となる子ども会や婦人会なども縮小している町もあることから、地域活動に参加するきっかけも無くなってきている。
- * 自治会と民生委員の間で日々の連携は少ないと感じている。
- * 男性は若いころ仕事などで地域の関わりを持っていないので高齢になった他時地域の関わりが少なく、関わりが持ちづらい。今後共働き世帯だった夫婦が高齢化してくる。夫婦そろって、地域と関わりが少なく夫婦そろって地域と関わらなくなってしまうことを危惧している。

● C グループ

< 1 > 委員 3 名、市職員 1 名、包括 1 名、市社協 1 名

① 地域活動の裾野を広げるためには、どのような働きかけが必要か

- ・いきいき体操には女性の参加者が多くいる。ただし男性の参加者は少ない傾向にある。体操などは比較的人が集まるかもしれない。

- ・地域活動への裾野を広げるためにまずは参加をしていただく必要がある。
既に行っている人はいるが高齢者は自身でその場まで行けない人がいるので車の乗り合いなどの手段があれば参加いただけると感じる。
- ・可美の高塚でシニアクラブを行っているがグラウンドゴルフや輪投げやラジオ体操やカラオケなどを行っている。メニューによって参加者が違うので様々なメニューが多数の参加者につながっているかもしれない。
- ・ふれあい交流センターには子連れでの参加が可能。何か活用が出来ないか。
また中学生が主体の活動もあると良いかもしれない。

< 2 > 委員 3 名、市職員 2 名、包括 1 名、市社協 1 名

② 困りごと発見のために

- ・卸本町は困りごとがあまり以前出てこなかった。一般的には自治会などに困りごとが挙がってくるが商業団地なこともあってそうではないかもしれない。ここ最近の取り組みとして回覧板や地域内での共有事項を LINE にて情報共有している。結果、多くの世代への情報共有などに活用がされている。
- ・自治会に入っていない方がいるため困りごとの発見が難しい。
- ・自治会として困りごとを発見するために自治会長の仕事を見直すことも必要かもしれない。
可美地区は役員が 2 年で交代をするため副会長が会長になるという構図が出来ていて引継ぎに繋がっているかもしれない。

< 3 > 委員 4 名、市職員 1 名、包括 1 名、市社協 1 名

③ 自分が感じる地域の課題について（高齢者に関すること）

- ・居場所はあるように感じるが女性の参加が多い居場所が多いと感じる。
仕事を行っていたが定年退職をしたなど急な地域活動への参加が難しいかもしれない。男性の居場所への参加は課題になるかもしれない。
行くことができるのに参加をしないのか、自分の趣味活動があり参加が不要なのかは把握を出来ると良いかも、友達がいると参加へのきっかけになるかもしれない。
- ・東若林にはシニアクラブがない。東若林のサロンも参加者が少なくなったため休止を行う。
今年度の後半から減ってきた、新しい参加者がいない。カラオケのグループはあるのでもしかすると別の活動に行っているかもしれない。
- ・若い世代が住むには可美地区は良い。ただし最近では可美に家族の名義で賃貸契約を行い、高齢者のみで住んでいることもある。今まで地域に住んでいる訳ではなく、途中から暮し始めるので地域には縁がないが独居高齢者として生活をしている。